

令和5年  
自己点検  
及び  
自己評価報告書

学校法人つくば文化学園  
日本つくば国際語学院

# 自己点検・自己評価項目

実施責任者  
日本つくば国際語学院  
教務主任 杉本 和

## 評価基準

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取組を検討中 1:改善が必要

### (1)教育理念・目的等

| 評価項目  | 評価 |
|---|----|
| 学校の理念・目標は定められているか   | 5  |
| 育成人材像・特色などが明確になっているか  | 4  |
| 理念に基づいた人材教育が行われているか   | 4  |
| 理念と教育目標が職員や生徒に周知されているか  | 4  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について   |    |
| 教育理念は職員に周知徹底されている。新規職員も同様に「日本語を楽しく学び、日本を好きになってもらう」という理念は伝え、その目的のもとで人材教育を行っている。例年と同様、様々な国から多くの学生が入国してきた。職員、学生共に人数も増えてきたため、より一層教育の徹底と質の維持に努めたい。 |    |

### (2)学校運営

| 評価項目   | 評価 |
|--|----|
| 運営方針は定められ、職員に周知されていて実行しているか  | 5  |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか  | 5  |
| 中長期的に学校の予算・収支計画は有効かつ妥当か  | 4  |
| 運営組織や意志決定機能が確立され、効率的なものになっているか   | 5  |
| 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか   | 4  |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか  | 4  |
| 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能は整備されているか  | 4  |
| 危機管理体制及び施設・設備は教育上の必要性和学生の安全確保に十分対応できる<br>よう学校教育法に基づき整備されているか   | 5  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について  |    |
| 日本後教育機関の告示基準をもとに、本部長が中心となり適切な運営を行っている。運営方針は本部長が本社と定期的に相談しながら策定をしている。今回は校舎の増築にあたり、その事業計画を策定する上で、本社と現場で綿密な打ち合わせを重ねたため、大きな問題は発生していない。学生の増加と共にそれぞれの業務量も増え、職場環境の整備は今後必要となってくるであろう。危機管理体制については、1.避難訓練の実施 2.避難場所の掲示 3.連絡網の整備を行った。 |    |

### (3) 教職員

| 評価項目  | 評価 |
|---|----|
| 教育理念・目的が教職員間で共有されているか   | 5  |
| 教育目標を達成するための取り組みがされているか   | 4  |
| 教職員の評価を行っているか   | 5  |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか  | 4  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について   |    |
| クラスの増設にともない教育目標の再確認が必要となってきた。教務主任が専任講師と連携をとりながら、非常勤講師に対し研修等を行っているが、十分とは言い難い。その目標達成のために、定期的に教員会議と授業見学を行い教育の質の向上に取り組んでいる。新しく入社した教員には教務主任が研修を行っている。教職員の評価については本部長が主任と相談の上、適切に評価を行っている。 |    |

### (4) 教育活動

| 評価項目  | 評価 |
|---|----|
| 進学のためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実践されているか  | 5  |
| 学習理解の到達度の確認はされていて成績評価は適切か   | 5  |
| 教育目標に適合した教材や機器が使用されているか   | 4  |
| 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか  | 4  |
| 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか   | 4  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について   |    |
| 開校以来、開発してきた教材をもとに教務主任と専任講師が中心となり教育活動を行っている。試験対策においては、日本語能力試験は一定の合格率を保っており、それが学内の成績にも正しく反映されている。一方で、日本留学試験に関しては受験者が少ないことから、学生本人に任せる場面が目立ったのは課題である。本学院の特徴は多国籍であることだが、進路の多様化と共に、それに適応した教材開発を進めていかなければいけない。 |    |

### (5) 学生支援

| 評価項目                             | 評価 |
|----------------------------------|----|
| 進学に関する体制は整備され、有効に機能しているか         | 5  |
| 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか       | 3  |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか          | 4  |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか               | 5  |
| 学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか          | 5  |
| 経費支弁者や、個人で学生を紹介してくれた人と適切に連携しているか | 3  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について              |    |

進学に関しては外部の進学説明会への参加やオリエンテーションを行い、その情報は学校全体で共有している。また今までに卒業した学生の進学先と繋がり、指定校推薦制度が得られたのも非常に大きい。学生の増加にともない、学生管理システムを導入し、そこで効率的に情報管理を行っている。多国籍であるため、全ての言語に対応ができないのは仕方のないことであるが、出席率、生活のルール、アルバイト関連など基本的な情報に関しては繰り返し説明をしているため理解している。健康管理においては校内で健康診断を実施。経済的支援としては、学費の支払い猶予計画の作成や個別面談を重ねるなどして対応している。経費支弁者や個人紹介には事務が定期的に状況を報告している。

#### (6) 学生募集と受け入れ

| 評価項目   | 評価 |
|--|----|
| 学生の受入れ方針は定まっているか   | 5  |
| 学生募集活動は適切に行われているか  | 5  |
| 学生募集活動において、教育成果は正しく伝えられているか  | 4  |
| 入学選考は、適正かつ公平は基準に基づき行われているか   | 5  |
| 学生定員設定は適正及び在籍者数になっているか   | 4  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について  |    |
| 学生の受け入れについては、引き続き実績をもとに対象国を限定して受け入れを行っている。基本的な方針は本部長と事務で行い、国によってはより厳しい基準を設けた。それが様々な国からの学生を受け入れるにあたっての本学院の方針である。国ごとに担当を決め、業務は円滑に進んでいるものの、まだ現地で募集活動が行える状況には至っていない。 |    |

#### (7) 在籍管理と生活指導

| 評価項目  | 評価 |
|---|----|
| 学生の生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、学生に周知されているか  | 5  |
| 我が国の法令を遵守させるための指導は行われているか   | 5  |
| 学生が母国と日本の文化の違いを理解するための指導やアドバイスが行われているか  | 4  |
| 入国・在留関係の管理や指導と支援が適切に行われているか   | 3  |
| 常に学生の最新情報を把握しているか   | 3  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について   |    |
| 学生が増えたことにより、例年以上にオリエンテーションの回数を増やして対応した。事務と教務が共同で生活指導をはじめとする様々な注意事項を説明し、学生管理を行っている。自転車による事故が多発したため、警察講話を実施し日本の法律を始め交通ルールや生活全般に関する指導を行った。学生寮に関しても定期的に巡回し生活指導を行っている。だが、全ての学生の管理が十分できているとは言えず、学生の最新情報に関しても把握が遅れることもあった。 |    |

#### (8)安全・危機管理

| 評 価 項 目  | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか  | 4  |
| 感染症発生防止・発生時の措置を定めているか  | 4  |
| 防災に対する体制は整備されているか  | 4  |
| 災害時に対する避難訓練を定期的実施しているか   | 4  |
| 災害時の避難経路、方法、場所を定めているか  | 4  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について  |    |
| 防災に対する備えは改善されつつある。保健室に災害用の備蓄、連絡に関しては震度4以上の場合、職員が校舎の点検を実施することになっている。また学生への安否確認の連絡網も整えつつある。また避難訓練を実施し、災害時の避難場所の確認及び自宅から避難場所までのルートを確認する等、危機管理体制を構築している。 |    |

#### (9)財務

| 評 価 項 目                                     | 評価 |
|---|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか                    | 5  |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか                    | 5  |
| 財務について会計監査が適切に行われているか                       | 5  |
| 財務情報公開の体制整備はできているか                          | 5  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について                         |    |
| 財務関連については母体である学校法人ホームページ上に公開し、適切に管理・公開している。 |    |

#### (10)法令等の遵守

| 評 価 項 目  | 評価 |
|--|----|
| 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか  | 5  |
| 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか   | 5  |
| 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか   | 5  |
| 自己点検・自己評価結果を公開しているか  | 5  |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について  |    |
| 法務省と入国管理局の運営基準をもとに、適正な運営を行った結果、今年度から「優良校」になることができた。個人情報の取り扱いには職員会議などで十分注意するよう確認している。自己点検・自己評価の公開に関してはホームページ上で公開している。 |    |

#### (11)社会貢献

| 評 価 項 目 | 評価 |
|---------|----|
|---------|----|

|  |   |
|--|---|
| 学生の教育資源や施設を活用した社会貢献に努めているか   | 2 |
| 学生のボランティア活動を奨励・支援に努めているか   | 2 |
| 現状と具体的な取り組み及び課題について  |   |
| 社会貢献やボランティア活動が重要なことではあるが、学生も学業とアルバイトを並行する人がほとんどである。教職員もこのような活動に時間をかけられるほどの余裕はなく、開校以来なかなか改善できずにいる項目である。 |   |

## (12) 総括

新型コロナウイルスの終息によって日本語学校も以前の状態に戻った。国は留学生をさらに受け入れていく姿勢を鮮明にしているが、一方で日本語学校の管理体制も課題になっている。そのため、新たな基準で日本語学校を再度審査していく「日本語学校の認定制度」の創設と、「日本語教師の国家資格」の創設は日本語教育の歴史において大きな転換期であると言えよう。

インバウンドの急激な増加が続く現在、新たな認定制度の「留学」だけでなく、「就労」「生活」が創設されたことは今後の日本語教育はますます多様化していくものだと考えてよいだろう。

これまで日本語学校は様々な問題を抱えながら教育を続けてきた。今後は新たな段階に入ることだろう。在留資格の緩和と共に、各日本語教育機関にはこれまで以上の管理と報告の徹底が求められていく。そして、留学生を受け入れるためには新基準による認定を得る必要がある。各日本語教育機関は誰を対象に、どのような日本語教育を行っていくのかを今一度原点に立ち返り考えていかなければならない。

